

港湾経済研究

地方港湾の構造と課題

日本港湾経済学会年報

No. 20 1982

日本港湾経済学会編

序

日本港湾経済学会会長 北 見 俊 郎

ご周知のように、わが国における一千余港のうち、地方港湾は全体の90%を占める。もともと港は地域的特色をもつものであり、その港と地域の経済・社会・文化は密接な相互関係を有するものである。この意味では、わが国の港の殆んどを占める約960港の地方港湾は港の本質的性格を示すと共に、国民経済・社会の面からも重要な役割をもっている。

6大港をはじめとする特定重要港湾や重要港湾は、国家や国民経済の立場からとくに重要視されるのは勿論であるが、近年においては各々の都市や地域との機能的関連性を求められている。他面、欧米における主要港の歴史と発展の性格をみる時、こうした地域や都市との関連性を無視しうるものではなく、港の「近代化」にとってそれが重要な一本の機軸であるとも思われる。

ところで今年度第21回の全国大会を富山県新湊市において「地方港湾の構造と課題」なる統一論題で開催され、会員諸兄のご労作をもって年報も20号をむかえることができたのはきわめて意義深くよろこびに耐えない。もちろん自由論題においても各港の玉稿がふくめられており、統一論題とも密接な関係をもっている。こうした会員諸兄による真摯な研究発表と討論が、以上に述べたように単に形態的な意味での地方港湾にとどまらず、港の本質的な課題を論ずると共に「近代化」の面からはむしろ地方港湾にこそ多くの可能性が秘められていることを思う時、この年報20号が今後の地方港湾の発展はもとより大港湾のあり方についても一つの方向性を示唆することができるものと思われる。

終りに、本年報および大会のために運輸省港湾局、富山県・新湊市の開催地関係者、事務局、執筆者、賛助会員をふくむ会員各位をはじめ文化印刷社等の多くの方々のご努力がそそがれていることを深く思い、あらためて厚くお礼を申上げると共に、学会のいよいよ盛んになることを祈る次第である。

目 次

序 北見俊郎

研 究

共通論題

- 地方の発展と地方港湾 神代方雅 (1)
港湾と生鮮食料品の流通について
——中央卸売市場に関連して—— 中本昭夫 (15)
石川県の港湾について 米山譲 (31)
地域振興からみた地方圈港湾の発展と今後の課題 今野修平 (45)
富山新港開発の過程と地域の課題 雨宮洋司 (63)
富山湾諸港の現状と問題点 二神弘 (84)

自由論題

- 港湾再開発に関する一考察 金井萬造 (102)
物的流通における海港の発達過程
——コンテナ港を中心として—— 山上徹 (117)
港湾運送事業の資源配分の効率性 坂井吉良 (137)
坂井港と蘭人技師エッセル 寺谷武明 (162)
地域経済の発展と港湾の課題 日比野光伸 (170)
港湾海岸行政の形態と諸問題
——公費官営事業を中心として—— 香川正俊 (188)
明治初期の横浜港整備計画 千須和富士夫 (206)

文 献 紹 介

- 北海道港湾建設史 松沢太郎 (222)
港湾都市サービス編「港湾都市」一川崎・横須賀港 斎藤公助 (227)
市川猛雄著「港湾運送事業法セミナー」 松橋幸一 (230)
井下田猛著「環境科学論」 富田功 (234)

学 会 記 錄

- 都市経済と港湾経営（第20回全国大会（横浜）シンポジウム概要） (238)
編集後記 (249)